

女川原子力発電所第2号機 工事計画審査資料	
資料番号	02-工-A-03-0004_改1
提出年月日	2021年7月13日

## 工事計画に係る説明資料

### 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設のうち

使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（2.4.2 燃料プール代替注水系）

（本文）

2021年7月

東北電力株式会社

## 申請範囲

- 2. 核燃料物質の取扱施設及び貯蔵施設
  - 2.4 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備
    - 2.4.2 燃料プール代替注水系
      - (2) ポンプ（可搬型）
        - ・大容量送水ポンプ（タイプ I）
      - (8) 主配管（スプレイヘッドを含む。）（常設）
      - (8) 主配管（スプレイヘッドを含む。）（可搬型）

2.4.2 燃料プール代替注水系  
 (2) ポンプ (可搬型)

O2 ① II R0

			変更前	変 更 後	
名 称				大容量送水ポンプ (タイプ I) *1	
ポ ン プ	種 類	—		うず巻型	
	容 量*2	m <sup>3</sup> /h/個		114 以上*3 126 以上*4 10 以上*5 199 以上*6 150 以上*7 1200 以上*8 50 以上*9 88 以上*10 (1440*11)	
	揚 程*2	m		42.1 以上*3 116.1 以上*4 21.6 以上*5 117.8 以上*6 30.8 以上*7 94.8 以上*8 98.8 以上*9 95 以上*10 (122*11)	
	最 高 使 用 圧 力*2	MPa	—	1.0*12 1.2*13, *14	
	最 高 使 用 温 度*2	℃		50	
	主 要 寸 法	吸 込 口 径	mm		300*11
		吐 出 口 径	mm		250*11
		た て	mm		1050*11
		横	mm		1280*11
		高 さ	mm		525*11
		車 両 全 長	mm		12750*11
		車 両 全 幅	mm		2495*11
	車 両 高 さ	mm		3510*11	
	材 料	ケ ー シ ン グ	—		ダクタイル鋳鉄
個 数	—			4 (予備 1)	
取 付 箇 所	—			保管場所： ・第1保管エリア 屋外 O.P.約 62m ・第2保管エリア 屋外 O.P.約 62m ・第3保管エリア 屋外 O.P.約 14.8m	

(次頁へ続く)

(前頁からの続き)

			変更前	変更後
ポンプ	取付箇所	—	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第4保管エリア 屋外 O.P. 約 62m</li> </ul> 予備を含めた5個を第1保管エリアに1個, 第2保管エリアに1個, 第3保管エリアに2個及び第4保管エリアに1個保管する。 取付箇所: [ <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外 O.P. 約 62m 淡水貯水槽 (No.1) 及び淡水貯水槽 (No.2) 付近<sup>*15</sup></li> <li>・屋外 O.P. 約 14.8m 海水ポンプ室 付近<sup>*16</sup></li> <li>・屋外 O.P. 約 3.5m 取水口付近<sup>*16</sup></li> </ul> ]
原動機	種類	—		ディーゼルエンジン
	出力	kW/個		847
	個数	—		
	取付箇所	—		ポンプと同じ

注記\*1 : 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備 (燃料プールのスプレイ系), 原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備 (原子炉格納容器フィルタベント系) 非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (低圧代替注水系, 代替水源移送系), 原子炉補機冷却設備 (原子炉補機代替冷却水系), 及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備 (原子炉格納容器下部注水系, 原子炉格納容器代替スプレイ冷却系, 低圧代替注水系), 放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備 (原子炉格納容器フィルタベント系), 圧力逃がし装置 (原子炉格納容器フィルタベント系) と兼用。

- \*2 : 重大事故等時における使用時の値。
- \*3 : 本系統で使用する場合の値を示す。
- \*4 : 使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備 (燃料プールのスプレイ系) で使用する場合の値を示す。
- \*5 : 原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備 (原子炉格納容器フィルタベント系), 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備 (原子炉格納容器フィルタベント系) 及び圧力逃がし装置 (原子炉格納容器フィルタベント系) で使用する場合の値を示す。
- \*6 : 原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (低圧代替注水系) 及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備 (低圧代替注水系) で使用する場合の値を示す。
- \*7 : 原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備 (代替水源移送系) で使用する場合の値を示す。
- \*8 : 原子炉冷却系統施設のうち原子炉補機冷却設備 (原子炉補機代替冷却水系) で使用する場合の値を示す。
- \*9 : 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備 (原子炉格納容器下部注水系) で使用する場合の値を示す。
- \*10 : 原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備 (原子炉格納容器代替スプレイ冷却系) で使用する場合の値を示す。
- \*11 : 公称値を示す。

- \*12: 淡水貯水槽を水源とし、本系統並びに使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（燃料プールスプレイ系）、原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（原子炉格納容器フィルタベント系）、非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧代替注水系、代替水源移送系）、及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器下部注水系、原子炉格納容器代替スプレイ冷却系、低圧代替注水系）、放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（原子炉格納容器フィルタベント系）、圧力逃がし装置（原子炉格納容器フィルタベント系）で使用する場合の値を示す。
- \*13: 原子炉冷却系統施設のうち原子炉補機冷却設備（原子炉補機代替冷却水系）で使用する場合の値を示す。
- \*14: 海を水源とし、本系統並びに使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（燃料プールスプレイ系）、原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧代替注水系、代替水源移送系）、及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器下部注水系、原子炉格納容器代替スプレイ冷却系、低圧代替注水系）で使用する場合の値を示す。
- \*15: 当該取付箇所は、本系統並びに使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（燃料プールスプレイ系）、原子炉冷却系統施設のうち残留熱除去設備（原子炉格納容器フィルタベント系）非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧代替注水系、代替水源移送系）及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器下部注水系、原子炉格納容器代替スプレイ冷却系、低圧代替注水系）、放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備（原子炉格納容器フィルタベント系）、圧力逃がし装置（原子炉格納容器フィルタベント系）として使用する場合の取付箇所を示す。
- \*16: 当該取付箇所は、本系統並びに使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備（燃料プールスプレイ系）、原子炉冷却系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備（低圧代替注水系、代替水源移送系）、原子炉補機冷却設備（原子炉補機代替冷却水系）、及び原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備の原子炉格納容器安全設備（原子炉格納容器下部注水系、原子炉格納容器代替スプレイ冷却系、低圧代替注水系）として使用する場合の取付箇所を示す。

(8) 主配管 (スプレイヘッドを含む。) (常設)

変更前					変更後										
名	称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 <sup>*1</sup> (mm)	厚さ <sup>*2</sup> (mm)	材	料	名	称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 <sup>*1</sup> (mm)	厚さ <sup>*2</sup> (mm)	材	料
燃料ブール代替注水系			—					燃料ブール代替注水系							
								燃料ブール注水接続口 (北), (東) ~ 使用済燃料ブール		1.37 <sup>*3</sup>	66 <sup>*3</sup>	165.2 <sup>*4</sup>	(7.1)	SUS304TP	
												165.2 <sup>*4</sup>	(7.1)	STS410	
												165.2 <sup>*4</sup>	(7.1)	STS410	
												165.2 <sup>*4</sup>	(7.1)	SUS304TP	
												165.2 <sup>*4</sup>	(7.1)	SUS304TP	

注記\*1 : 外径は公称値を示す。  
 \*2 : ( )内は公称値を示す。  
 \*3 : 重大事故等時における使用時の値。  
 \*4 : エルボを示す。

(8) 主配管(スプレイヘッドを含む。)(可搬型)

変更前		変更後					
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	個数	取付箇所
燃料一化代替注水系							保管場所： <ul style="list-style-type: none"> <li>・第1保管エリア O.P.約62 m</li> <li>・第2保管エリア O.P.約62 m</li> <li>・第3保管エリア O.P.約14.8 m</li> <li>・第4保管エリア O.P.約62 m</li> </ul> 予備を含めた39本を第1保管エリアに12本、第2保管エリアに12本、第3保管エリアに12本及び第4保管エリアに3本保管する。
燃料一化代替注水系					ポリエス テル、ポ リウレタ ン	36 *5 (予備 3)	取付箇所： (・屋外 O.P.約62 m 淡水貯水槽 (No.1)及び淡水貯水槽 (No.2)～屋外 O.P.約62 m 大容量送水ポンプ(タイプI) (4本*6) ・屋外 O.P.約3.5 m 取水口又は屋外 O.P.約14.8 m 海水ポンプ室～屋外 O.P.約3.5 m又は屋外 O.P.約14.8 m 大容量送水ポンプ(タイプI) (6本*7, *8) ・屋外 O.P.約3.5 m 取水口又は屋外 O.P.約14.8 m 海水ポンプ室～屋外 O.P.約3.5 m又は屋外 O.P.約14.8 m 大容量送水ポンプ(タイプII) (6本*9, *10)

変更前										変更後					
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	個数	取付箇所	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	個数	取付箇所
燃料プー化替注水系								燃料プー化替注水	1.4	50	300A <sup>*3</sup>	— <sup>*4</sup>	ポリエス テル、ポ リウレタ ン	<sup>*11</sup> 217 (予備 5)	保管場所： ・第1保管エリア O.P.約62 m ・第2保管エリア O.P.約62 m ・第3保管エリア O.P.約14.8 m ・第4保管エリア O.P.約62 m  予備を含めた222本を第1保管エリアに71本、第2保管エリアに72本、第3保管エリアに74本及び第4保管エリアに5本保管する。  取付箇所： ・ 屋外 O.P.約3.5 m若しくは屋外 O.P.約14.8 m又は屋外 O.P.約62 m 大容量送水ポンプ(タイプI)～屋外 O.P.約14.8 m 注水用ヘツダ (33本 <sup>*12, *13</sup> ) ・ 屋外 O.P.約3.5 m又は屋外 O.P.約14.8 m 大容量送水ポンプ(タイプII)～屋外 O.P.約62 m 淡水貯水槽 (No.1)及び淡水貯水槽 (No.2) (33本 <sup>*14, *15</sup> ) ・ 屋外 O.P.約3.5 m又は屋外 O.P.約14.8 m 大容量送水ポンプ(タイプI)～屋外 O.P.約14.8 m 原子炉補機代替冷却水系熱交換器ユニット(北側設置)又は(西側設置) (28本 <sup>*16, *17</sup> ) ・ 屋外 O.P.約14.8 m 原子炉補機代替冷却水系熱交換器ユニット(北側設置)又は(西側設置)～放水槽 (6本 <sup>*18, *19</sup> ) ・ 屋外 O.P.約3.5 m又は屋外 O.P.約14.8 m 大容量送水ポンプ(タイプII)～屋外 O.P.約14.8 m 放水砲又は屋外 O.P.約14.8 m 泡消火薬剤混合装置 (31本 <sup>*19, *20</sup> ) ・ 屋外 O.P.約14.8 m 泡消火薬剤混合装置～屋外 O.P.約14.8 m 放水砲 (1本 <sup>*21</sup> )



変更前										変更後					
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	個数	取付箇所	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	個数	取付箇所
燃料プールの代替注水系	—	—	—	—	—	—	—	燃料プールの代替注水系	1.4	50	318.5 <sup>*23</sup>	10.3 <sup>*23</sup>	SUS304	2 (予備 1)	保管場所： ・第2保管エリア O.P.約62 m ・第3保管エリア O.P.約14.8 m ・第4保管エリア O.P.約62 m  予備を含めた3個を第2保管エリアに1個、第3保管エリアに1個及び第4保管エリアに1個保管する。  取付箇所： ・屋外 O.P.約14.8 m 原子炉建屋(北側)付近 ・屋外 O.P.約14.8 m 原子炉建屋(東側)付近 ・屋外 O.P.約14.8 m 原子炉建屋(西側)付近
燃料プールの代替注水系	—	—	—	—	—	—	—	送水用ホース (150A : 1m, 2m, 5m, 10m, 20m)	1.6	50	150A <sup>*3</sup>	— <sup>*4</sup>	ポリエス テル、ポ リウレタ ン	137 (予備 5)	保管場所： ・第2保管エリア O.P.約62 m ・第3保管エリア O.P.約14.8 m ・第4保管エリア O.P.約62 m ・原子炉建屋原子炉棟 O.P.15.00 m ・原子炉建屋原子炉棟 O.P.31.40 m ・原子炉建屋原子炉棟 O.P.33.20 m  予備を含めた142本を第2保管エリアに33本、第3保管エリアに22本、第4保管エリアに5本、原子炉建屋原子炉棟 O.P.15.00 mに60本、原子炉建屋原子炉棟 O.P.31.40 mに11本及び原子炉建屋原子炉棟 O.P.33.20 mに11本保管する。  取付箇所： ・屋外 O.P.約14.8 m 注水用ヘッダ～屋外 O.P.約14.8 m 燃料プール注水接続口(北)若しくは屋外 O.P.約14.8 m 燃料プール注水接続口(東)又は原子炉建屋原子炉棟(3本 <sup>*26</sup> 、 <sup>*27</sup> ) ・原子炉建屋原子炉棟～燃料プール注水接続口(屋内)(10本 <sup>*28</sup> )

変 更 前										変 更 後					
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	個数	取付箇所	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 (mm)	厚さ (mm)	材料	個数	取付箇所
燃料プール代替注水系								燃料プール代替注水系							<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外 0.P.約14.8 m 注水用ヘツダ〜使用済燃料プール (10本<sup>*26</sup>,<sup>*28</sup>)</li> <li>・屋外 0.P.約14.8 m 注水用ヘツダ〜グロスデバイザー管 (15本<sup>*29</sup>,<sup>*30</sup>)</li> <li>・屋外 0.P.約14.8 m 注水用ヘツダ〜屋外 0.P.約14.8 m 燃料プー ルスブレイ接続口 (北) 若しくは屋外 0.P.約14.8 m 燃料プー ルスブレイ接続口 (東) 又は原子炉建屋原子炉棟 (3本<sup>*27</sup>,<sup>*29</sup>)</li> <li>・原子炉建屋原子炉棟〜燃料プー ルスブレイ接続口 (屋内) (10本<sup>*29</sup>)</li> <li>・屋外 0.P.約14.8 m 注水用ヘツダ〜屋外 0.P.約14.8 m 原子炉・格納容器下部注水接続口 (北) 若しくは屋外 0.P.約14.8 m 原子炉・格納容器下部注水接続口 (東) 又は原子炉建屋原子炉棟 (3本<sup>*27</sup>,<sup>*31</sup>)</li> <li>・原子炉建屋原子炉棟〜原子炉・格納容器下部注水接続口 (屋内) (10本<sup>*31</sup>)</li> <li>・屋外 0.P.約14.8 m 注水用ヘツダ〜屋外 0.P.約14.8 m 復水貯蔵タンク接続口 (10本<sup>*32</sup>,<sup>*33</sup>)</li> <li>・屋外 0.P.約14.8 m 注水用ヘツダ〜屋外 0.P.約14.8 m 格納容器スブレイ接続口 (北) 若しくは屋外 0.P.約14.8 m 格納容器スブレイ接続口 (東) 又は原子炉建屋原子炉棟 (3本<sup>*27</sup>,<sup>*34</sup>)</li> <li>・原子炉建屋原子炉棟〜格納容器スブレイ接続口 (屋内) (10本<sup>*34</sup>)</li> </ul>

注記\*1：重大事故等時における使用時の値。

\*2：使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備(燃料プール系、放射性物質拡散抑制系)、原子炉冷却系系統施設のうち残留熱除去設備(原子炉格納容器フィルタベント系)、非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(低圧代替注水系、代替水源移送系)、原子炉補機冷却設備(原子炉補機代替冷却水系)、原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(原子炉格納容器下部注水系、原子炉格納容器代替スプレイ冷却系、低圧代替注水系)、放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備(放射性物質拡散抑制系、放射性物質濃度制御設備及び可燃性物質濃度制御設備)、圧力逃がし装置(原子炉格納容器フィルタベント系)と兼用する。

\*3：メーカにて規定する呼び径を示す。

\*4：メーカ仕様によるものとし、完成品として一般産業品の規格及び基準に適合するものであって、重大事故等時における使用圧力及び使用温度が負荷された状態において強度が確保できるものを使用する。

\*5：必要本数36本(5 m：12本、10 m：12本、20 m：12本)に予備各1本の数量を示す。

\*6：本系統並びに使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備(燃料プール系)、原子炉冷却系系統施設のうち残留熱除去設備(原子炉格納容器フィルタベント系)、非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(低圧代替注水系、代替水源移送系)、原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(原子炉格納容器下部注水系、原子炉格納容器代替スプレイ冷却系、低圧代替注水系)、放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備(放射性物質拡散抑制系、放射性物質濃度制御設備及び可燃性物質濃度制御設備)、圧力逃がし装置(原子炉格納容器フィルタベント系)と兼用する。

\*7：本系統並びに使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備(燃料プール系)、非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(低圧代替注水系、代替水源移送系)、原子炉補機冷却設備(原子炉補機代替冷却水系)、原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(原子炉格納容器下部注水系、原子炉格納容器代替スプレイ冷却系、低圧代替注水系)と兼用する。

\*8：最長ルートである「海水ポンプ室～大容量送水ポンプ(タイプI)」に敷設した場合(5 m：2本、10 m：2本、20 m：2本)の数量を示す。  
\*9：使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備(放射性物質拡散抑制系)、非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(代替水源移送系)、放射性物質濃度制御設備及び可燃性物質濃度制御設備並びに格納容器再循環設備(放射性物質拡散抑制系、放射性物質濃度制御系(航空機燃料火災への泡消火))で使用する場合を示す。

\*10：最長ルートである「海水ポンプ室～大容量送水ポンプ(タイプII)」に敷設した場合(5 m：2本、10 m：2本、20 m：2本)の数量を示す。

\*11：必要本数217本(2 m：6本、5 m：7本、10 m：6本、50 m：184本)に予備各1本の数量を示す。

\*12：本系統並びに使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備(燃料プール系)、原子炉冷却系系統施設のうち残留熱除去設備(原子炉格納容器フィルタベント系)、非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(低圧代替注水系、代替水源移送系)、原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(原子炉格納容器下部注水系、原子炉格納容器代替スプレイ冷却系、低圧代替注水系)、放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備(放射性物質拡散抑制系、放射性物質濃度制御設備)、圧力逃がし装置(原子炉格納容器フィルタベント系)と兼用する。

\*13：最長ルートである「屋外 O.P. 約62 m 大容量送水ポンプ(タイプI)～注水用ヘッド(東側設置)」に敷設した場合(20 m：1本、50 m：32本)の数量を示す。

\*14：原子炉冷却系系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(代替水源移送系)で使用する場合を示す。

\*15：最長ルートである「屋外 O.P. 約14.8 m 大容量送水ポンプ(タイプII)～淡水貯水槽(No.2)」に敷設した場合(2 m：1本、50 m：32本)の数量を示す。

\*16：原子炉冷却系系統施設のうち原子炉補機冷却設備(原子炉補機代替冷却水系)で使用する場合を示す。

\*17：最長ルートである「屋外 O.P. 約3.5 m 大容量送水ポンプ(タイプI)～原子炉補機代替冷却水系熱交換器ユニット(西側設置)～放水槽」に敷設した場合(20 m：2本、50 m：4本)の数量を示す。

\*18：最長ルートである「原子炉補機代替冷却水系熱交換器ユニット(西側設置)～放水槽」に敷設した場合(20 m：2本、50 m：4本)の数量を示す。  
\*19：使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備(放射性物質拡散抑制系)、原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備(放射性物質拡散抑制系、放射性物質濃度抑制系(航空機燃料火災への泡消火))で使用する場合を示す。

\*20：最長ルートである「屋外 O.P. 約3.5 m 大容量送水ポンプ(タイプII)～放水槽」に敷設した場合(5 m：1本、20 m：2本、50 m：28本)の数量を示す。

\*21：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備(放射性物質拡散抑制系(航空機燃料火災への泡消火))で使用する場合を示す。  
\*22：使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備(燃料プール系)、原子炉冷却系系統施設のうち残留熱除去設備(原子炉格納容器フィルタベント系)、非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(低圧代替注水系、代替水源移送系)、原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(原子炉格納容器下部注水系、原子炉格納容器代替スプレイ冷却系、低圧代替注水系)、放射性物質濃度制御設備及び可燃性ガス濃度制御設備並びに格納容器再循環設備(原子炉格納容器フィルタベント系)、圧力逃がし装置(原子炉格納容器フィルタベント系)と兼用する。

\*23：公称値を示す。

\*24：使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備(燃料プール系)、原子炉冷却系系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(低圧代替注水系、代替水源移送系)、原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(原子炉格納容器下部注水系、原子炉格納容器代替スプレイ冷却系、低圧代替注水系)と兼用する。

\*25：必要本数137本(1 m：6本、2 m：10本、5 m：21本、10 m：21本、20 m：79本)に予備各5本の数量を示す。

\*26：本系統で使用する場合を示す。

\*27：最長ルートである「注水用ヘッド～原子炉建屋原子炉棟」に敷設した場合(20 m：3本)の数量を示す。

\*28：最長ルートである「注水用ヘッド(東側設置)～使用済燃料プール」に敷設した場合(5 m：3本、10 m：1本、20 m：6本)の数量を示す。

\*29：使用済燃料貯蔵槽冷却浄化設備(燃料プール系)で使用する場合を示す。

\*30：最長ルートである「注水用ヘッド(東側設置)～クロスバイザー管」に敷設した場合(2 m：2本、5 m：4本、10 m：3本、20 m：6本)の数量を示す。

\*31：原子炉冷却系系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(低圧代替注水系)、原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(原子炉格納容器下部注水系、低圧代替注水系、低圧代替注水系)で使用する場合を示す。

\*32：原子炉冷却系系統施設のうち非常用炉心冷却設備その他原子炉注水設備(代替水源移送系)で使用する場合を示す。

\*33：最長ルートである「注水用ヘッド(西側設置)～復水貯蔵タンク」に敷設した場合(5 m：1本、20 m：9本)の数量を示す。

\*34：原子炉格納施設のうち圧力低減設備その他の安全設備(原子炉格納容器安全設備(原子炉格納容器代替スプレイ冷却系))で使用する場合を示す。